

心身の健康が犠牲になる
クレジットカード債務：
その媒介経路の考察

Physical and psychological toll of credit card debt:
An investigation of the mediating pathway

翁志遠 (輔仁大学社会学部)

カード債務はどこから？

週六夜現場 - 如何脫離卡債人生 (中文字幕)



サタデーナイト・ライブ -
カード債務から抜け出すには
(<http://forgetfulbc.blogspot.com/2015/09/debt.html>)

カード債務は浪費のせい マッキンゼー誹謗で訴えられる

[記者廖繼銘 台北報道] 2006年3月11日に金融監督管理委員会広報担当・林忠正がマッキンゼー社の統計を引用し、台湾のクレジットカード利用者5600人の調査によると、カード債務者の支出の64%が不必要な支出で、ぜいたくのためにカードを使用していると指摘した。汚名を着せられたとして、債務者は25日台北地方檢察署に同社を誹謗で訴えた。



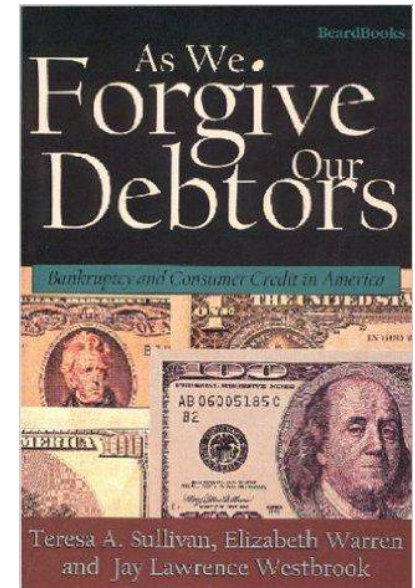
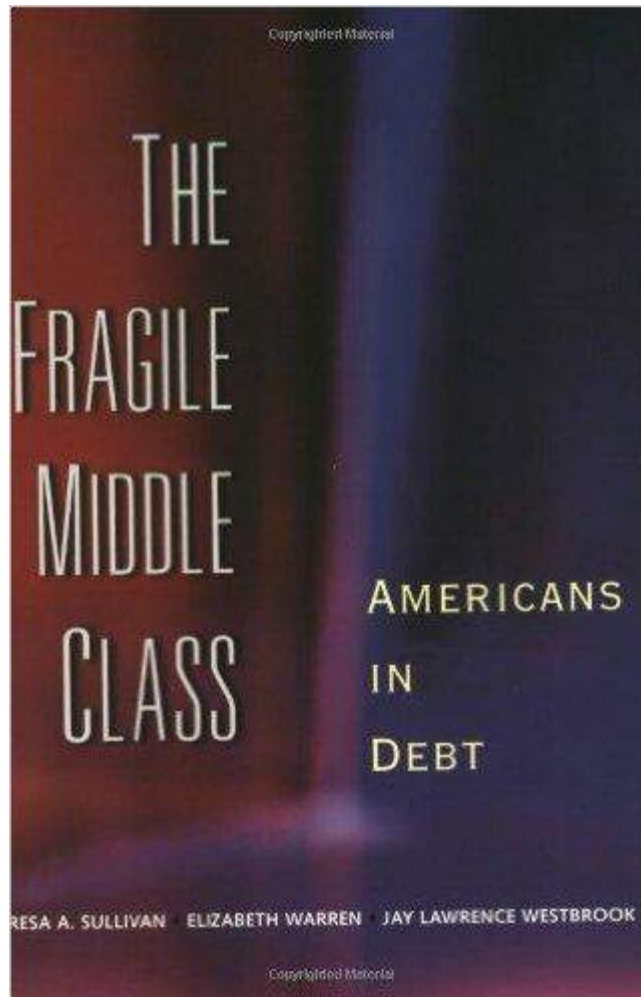
冷血銀行被害者連線・連絡人の王為仁によると、刑法310条に、公衆に散布することを意図して、他人の名誉を毀損するに足る事を指摘または伝えたものは、誹謗罪とすると定めている。行政院金融監督管理委員会が2006年3月15日に提出した「金管会のカード債務問題に対する分析と処理の説明」は、カード債務形成の原因について、マッキンゼー社の分析を引用し、約60%が不必要な消費支出であるとしている。

この情報は某メディアが2006年3月30日財テク金融面で、金管会がマッキンゼー社が出版予定だったレポートを引用し、64%のカード債務者に不必要な支出が多すぎると指摘し、さらに5600名のクレジットカード利用者サンプルは、一部はVISAインターナショナル、一部は銀行の提供によるとしたものである。

Source:

http://www.idn.com.tw/news/news_content.php?catid=id=0&artid=20060525ah006

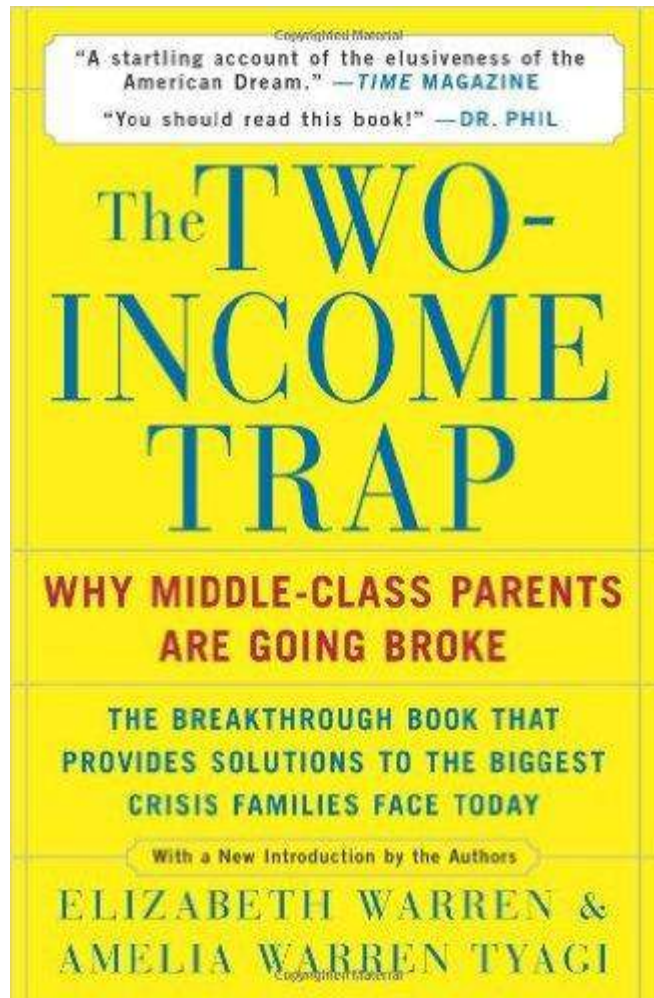
米国の事例 (Sullivan, Warren, & Westbrook, 1999, 2001)



破産者は中流層が多い。財務トラブルの原因は

1. ほとんどが仕事・収入が不安定
2. 離婚・家族形態の変化
3. 医療支出の大幅増大と住宅コスト
4. 消費貸借の激増

米国の事例 (Warren & Tyagi, 2003)



1. 消費支出に関する数値を詳しく見直したところ、米国人の消費習慣に大きな変化はなかった。よって、過度の消費によるものという偏見を排斥している (overconsumption myth)。
2. 中流層のコスト増大 (住宅・教育・交通費支出など)。
3. 共稼ぎ家庭が常態化し、旧来の家庭で主婦が有した危機緩衝の作用が失われた。
4. 金融信用貸借業務の規制緩和により、中流層の返済能力の成長が貸借増大のペースに追いついていない。

台湾の事例

(吳宗昇 2011; 夏傳位, 2008)



1. 早期において消費者金融体系は人為的な操作が行われ、そのルールにも多くの罠が隠れていた
2. 「夢の実現」や「自分らしさの実現」を謳う広告を駆使し、消費者の金銭感覚と客観的な経済的条件との関係にギャップを生み出した
3. 消費が成熟した高リスク社会において、クレジットカードは社会をセーフティネットの綻びから守る最後の砦である。
3. 「世界唯一」の債務協議制度：銀行が一方的に返済総額と分割期間を決定し、債務者の実収入で対処できるか否か全く考慮されない

クレジットカードと心身の健康状態を考察する理由とは？

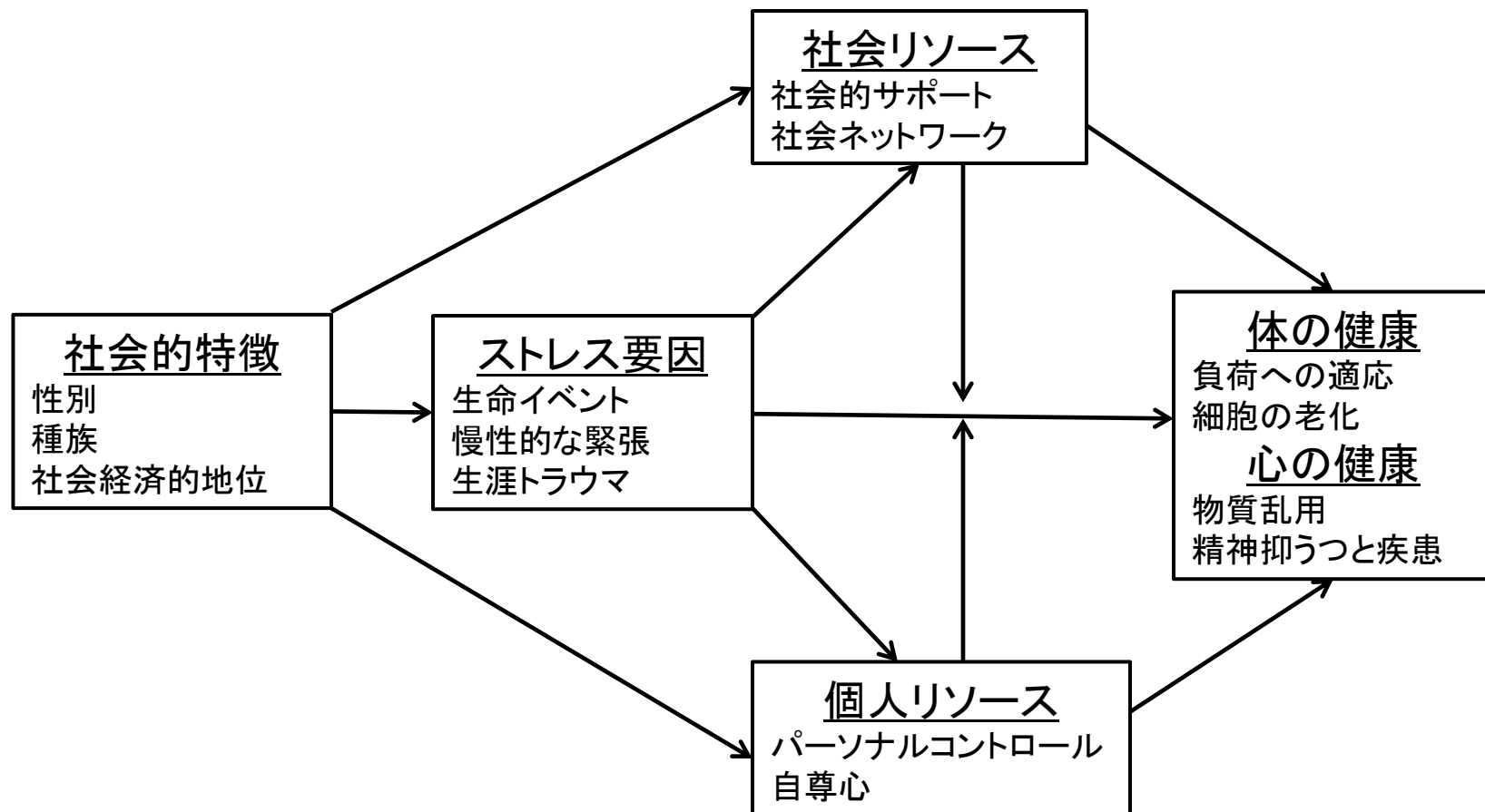
(Keese and Schmidt 2014)

- 債務の累積と処理の過程が、確かに心身の健康に負の効果があるなら、政策的に個人または家庭が危険な負債の状態に陥らないようにすべきである。もしくは、債務が嵩んでいる者に対し、より良心的な債務処理制度の提供が必要である。
- 債務の累積と処理過程がいずれの面で健康に大きく影響するのかを理解しなければ、それに基づき適切な健康促進案を講じることはできない。
- 健康の不平等を引き起こす潜在メカニズムを明らかにするのに役立つ (underlying mechanisms)

クレジットカード債務はどのように健康リスクを生むのか？

- クレジットカード債務は通常、個人が短期および長期にわたる経済的困難な状況にあることを意味する
- 多額の債務によって、個人は健康に関わる製品や財貨の支出を削減する
- 借金そのもの、およびそれに伴う他のマイナスの財務事件は、健康状態を悪化させるストレス反応を引き起こす可能性が極めて高い

債務とメンタルヘルス:ストレスプロセス (stress process) 理論の応用



(Pearlin 1989, 1999; Pearlin et al. 1981; Pearlin et al. 2005; Pearlin and Schooler 1978; Pearlin and Skaff 1996)

無担保(unsecured)債務と心身の健康との関係：先行研究

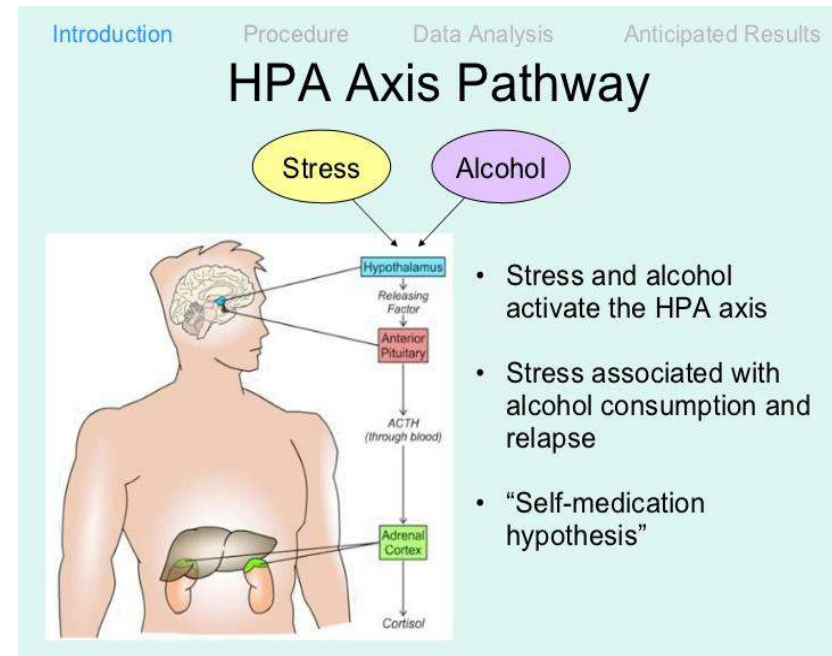
メンタルヘルス：無担保債務と多種のメンタルヘルスの結果の測定は明らかに相関する

1. 自殺行為（suicide completers：Chan et al., 2009; Chen et al., 2006; Wong et al., 2008, 2010）と自殺念慮（suicidal ideation：Hintikka et al., 1998; Meltzer et al., 2011）
2. 物質乱用（ドラッグ・アルコール・タバコを含む：Berg et al., 2010; Jenkins et al., 2008; Meltzer et al., 2013; Nelson et al., 2008; Roberts et al., 1999, 2000; Stuhldreher et al., 2007; Webley & Nyhus, 2001）
3. 一般的精神疾患（common mental disorder：Clark et al., 2012; Cooper et al., 2008; Meltzer et al., 2013; Patel et al., 1998; Pothen et al., 2003）
4. うつ（depression：Beseler & Stallones, 2008; Kaji et al., 2010; Meltzer et al., 2010, 2013; Pothen et al., 2003; Stuhldreher et al., 2007）

Richardson, Thomas, Peter Elliott, and Ronald Roberts, 2013, “The Relationship between Personal Unsecured Debt and Mental and Physical Health: A Systematic Review and Meta-Analysis.” *Clinical Psychology Review* 33(8): 1148-1162.

債務と体の健康: 負荷への適応 (allostatic load)

- 個体が多重の急性または慢性ストレス源に直面したとき、生理システムの波で順応する。
- 環境が適切であれば、身体の消耗は少なく、環境が劣悪であれば、身体はよりエネルギーを費やして、環境内での安定を維持し、それに応じて消耗も増大する。



<https://www.slideshare.net/ealterman/hp-apresentation-5pp>

- 生理的指標(ストレスに関わる生理システム): 神経内分泌系統(唾液中コルチゾール等)、免疫・炎症系統(インスリン様成長因子等)、代謝系統(HDLコレステロール等)、心血管・呼吸系統(収縮圧等)。

無担保(unsecured)債務と心身 の健康との関係：先行研究

体の健康：無担保債務と体の健康状態の各種
測定指標には、明らかな用量反応関係がある
(does-response effect: すなわち債務が深刻な
ほど、健康の問題が大きい)

1. 身体健康自己評価 (self-rated physical health: O'Neill et al., 2005)
2. 長期不調と障害 (long term illness or disability: Balmer et al., 2006)
3. 慢性疲労 (chronic fatigue: Patel et al., 2005)
4. 背部痛 (back pain: Ochsmann et al., 2009)
5. 肥満 (obesity: Webley & Nyhus, 2001)
6. 生活品質 (health related quality of life as measured by the SF-36)

Richardson, Thomas, Peter Elliott, and Ronald Roberts, 2013, “The Relationship between Personal Unsecured Debt and Mental and Physical Health: A Systematic Review and Meta-Analysis.” *Clinical Psychology Review* 33(8): 1148-1162.

研究課題と仮説

- クレジットカード債務は有担保ローンと異なり、従来の社会経済的地位とは独立しているだけでなく、個人の心身の健康に顕著な影響を及ぼす？
 - 仮説1: 社会人口の特徴と社会経済的地位の条件を制御しても、カード債務を含まない金銭貸借と比較し、カード債務を含む金銭貸借と個人の心身の福祉には強く且つ顕著な負の関連がある。
 - 仮説2: カード債務累積は慢性的緊張(chronic strain)であり、ストレス過程の相関理論に基づくと、その健康への影響は、心理的苦痛の増加に始まり(distress)、更に蓄積して身体のさまざまな機能障害(dysfunction)を引き起こすのであり、体の生理が心理に影響するわけではない。

研究方法

➤ サンプル: 2007年台湾社会変遷 第5期第3次調査-階層グループ

➤ 主な従属変数

○ 生理的な失調(physical dysfunction, $\alpha=.69$)

- ・ 過去1年間の健康状態は？ (1=良い; 4=悪い)
- ・ 最近1ヶ月の間に、体の不調またはケガにより日常生活(学校、仕事、家事など)に影響が出たことがありますか？ (1=影響ない; 4=多大な影響がある)
- ・ 2問の相加から自然対数を得て、点数が高いほど体の不調が深刻であることを意味する

○ 心理的な苦痛(psychological distress, $\alpha=.80$)

過去1週間以内に、8種の感覚が現れた頻度

- ・ 生命には意味がある(逆転項目)、苛立つ、仕事がきつい、怖い、悲しい、眠れない等(1=全く当てはまらない、4=ほぼ毎日当てはまる)
- ・ 「生命には意味がある」を除いた設問は信頼性係数 α が向上する(.80)
- ・ 7問の相加から自然対数を得て、点数が高いほど心理的な苦痛が深刻であることを意味する。

研究方法 (cont.)

➤ 主な独立変数

○ 債務変数

- 「負債の状況」: 債務無しを参照カテゴリとし、3つのダミー変数を設ける: 「三年以内の債務」、「三年以前と以内の債務」、「三年以前の債務」
- 「負債額」: 「現時点で、返済しなければならないローンまたは借金は家にどれだけ?」(0=債務なし、5=50~100万元、9=1000万元以上)
- 「クレジット/キャッシングカード債務が債務総額に占る割合」: 11等級尺度で評価(0=無し、5=50%、10=100%)
- 「債務のタイプ」: 債務無しを参照カテゴリとし、2つのダミー変数を設ける: 「債務あり(カード債務を含む)」と「債務あり(カード債務無し)」

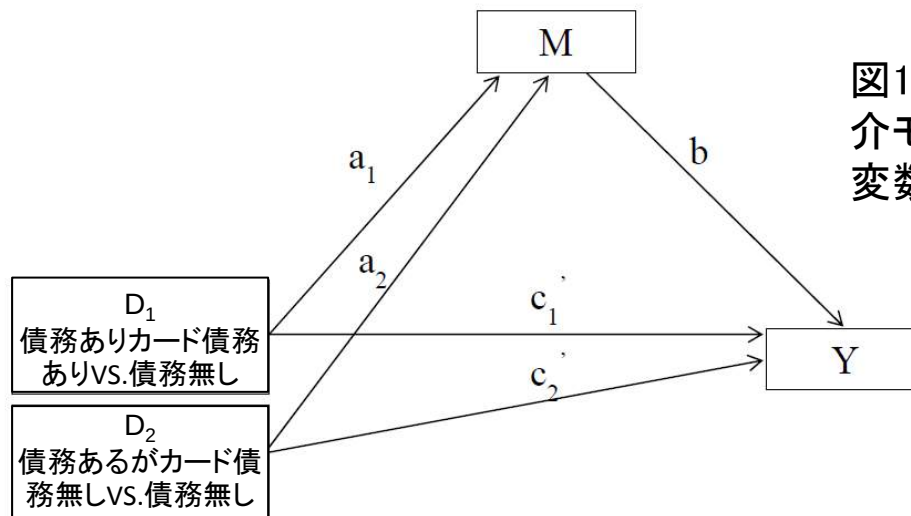


図1 独立変数3タイプの状況における媒介モデルルート図(Mは媒介変数、Yは結果変数)

表 4 債務分類別の身体失調予測:
ブートストラップ法による心の苦痛を経た間接効果

Panel A

	Dummy coding		
	債務無し	債務あり (カード債務あり)	債務あり (カード債務無し)
D ₁	0	1	0
D ₂	0	0	1

独立変数: 債務分類対比	効果別	効果推計値	97.5%Bial-corrected CI
債務あり(カード債務あり) vs. 債務無し	直接(c ₁)	-.0001	(-.08 .08)
	間接(a ₁ × b)	.07	(.03, .12)
債務あり(カード債務無し) vs. 債務無し	直接(c ₂)	.004	(-.04, .04)
	間接(a ₂ × b)	.01	(-.004, .03)

注: N=1811。全ての人口変数、社会経済的地位と債務発生時間を制御している。ブートストラップ・サンプル数=10,000。

独立変数はマルチカテゴリであることから、多重検定を行うために、個別検定の α 値を.025に下方修正して 97.5%の信頼区間を構成することにより、検定全体の Type I エラーによる膨張を避けた。

研究による発見

- 債務がクレジットカードと無関係のとき、心理的な苦痛は少々増すものの、生理的な機能を損なうほどではない。
- 金銭貸借に無担保・高利率・日常生活支出の用に供することを特徴とするクレジットカード債務を含むとき(金額の多寡に関わらず)、心身の健康がともに顕著に悪化している。
- 媒介分析が示すように、クレジットカード債務は、先に心の健康を害し、後に体に影響する。先に体、後に心ではない。

研究の結論と今後の方向

- 債務には良し悪しがあり、異なるタイプの債務で心身の健康に影響する方向と強さは一致しない。研究においてはそれぞれの測定を明確にすることが好ましい
- 今後、カード債務(無担保債務)がどのように個人の心の健康を破壊していくのか、また、それにより引き起こされる体への害を知る多くの研究がなされる必要がある
 - 他の付帯的なストレス要因: リボルビング払い利率、社会的な汚名、不当な督促、無理解な裁判官と銀行
 - 健康に不利なストレスコーピング(coping strategies)、例えば病気になっても受診しない(Kalousova & Burgard 2013)物質乱用などの逃避手段を選択する(Adams & Moore 2007; Nelson et al. 2008)
 - 債務による健康への害は子孫にまで及び、世代間伝達(intergenerational transmission)の現象となる可能性がある(Berger & Houle 2016)